

〈総合的な学習の時間〉

課題発見・解決能力を育むための学習指導の工夫 ——他者とかかわる協同的な活動とワークシートの工夫を通して（第6学年）——

名護市立安和小学校教諭 知 念 巧

I テーマ設定の理由

21世紀は、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であるといわれている。このような状況において、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になっている。

「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」（以下「解説総合編」）においては、総合的な学習の時間の教育課程における位置づけを明確に示し、教科等の関連を図り、探究的な学習として充実させること、他者との協同や言語活動の充実を図ることを求めている。身近な生活から課題を設定し、必要な情報を収集し整理・分析を行いながら自分の考えをまとめ表現する問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動としての探究的な学習の必要性を重視している。そのため、一人一人の児童に自分の身近な環境や生活、社会から問題を見付け出し、自分自身で体験し、調べ、考える機会を与えることは重要な学習活動といえる。こうして試行錯誤しながら探究していく過程で体験的・協同的な活動を経て成就感をもたせることにより、自己効力感を高めながら自己の生き方を考えていくことができると捉える。

これまでの学習では、地域の素材を生かし「シークワサー」や「さとうきび」、「月桃」を使ったものづくりを地域の人々とともにやってきた。しかし、本来の総合的な学習の時間の目標である児童の主体的な探究活動とまではいかず、教師の主導により児童にとっては受動的な学習になっていたり、体験すること自体を目的と捉えさせたりしてしまったのではないかと考える。よって、地域のよさに気づき、特色を生かした豊かな体験活動を通して児童が興味関心を持ち、自ら課題を見付け解決しようとする課題発見・解決能力が育まれるための学習指導の工夫を研究していきたい。そのためには、学習計画の見通しをもち他者とかかわる協同的な活動を通じて探究的な学習に取り組み、学び合う経験を積み重ねていく必要がある。この協同的な活動を通して多様な考えや異なる見方により自己の振り返りができたり、他者のよさや自分のよさに気づき、知的に切磋琢磨して探究の質をより高度なものにしたりすることができる。また、学習活動の中で気づいたことや自分の考え等をワークシートや付箋に書き出し、KJ法的な手法やウェビング等で整理・分析することは課題解決や探究活動への発展を図ることもできると考える。

そこで、本研究では身近な人々と交流を図り、児童相互で課題を見出し追究する協同的な活動を通して、気づきや考え等をワークシートや付箋に書いて類型化し、整理・分析をKJ法的な手法やウェビング等を活用して構造化することによって、児童が自ら課題を設定し、主体的に問題を解決する資質や能力が育まれるであろうと考え本テーマを設定した。

〈研究仮説〉

地域とかかわる活動「勝山の宝でむらおこし」において、地域の人々と交流し、児童相互が協同して課題を解決しようとする活動や、類型化・構造化のできるワークシートを工夫することにより、課題を見出し解決への明確な見通しがもてるようになり、課題発見・解決能力が育まれるであろう。

II 研究内容

1 課題発見・解決能力とは

(1) 安和小学校の総合的な学習の時間における課題発見・解決能力

小学校学習指導要領において、総合的な学習の時間の目標は、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。」と示されている。そして、この目標を踏まえて各学校における目標と内容を定めることとされている。本校の総合的な学習の時間は、名称を「きらきらタイム」、領域を地域学習として、「見つめよう・深

めよう・広げよう・足もとから」のテーマを掲げ、目標として、地域に愛着をもち、地域の特色を知って、コミュニケーション能力や課題解決力、課題設定能力、表現力を育むことを設定している。本校は、安和区、山入端区、勝山区の3区からなり、嘉津宇岳、安和岳などの山々に囲まれ、海岸部には名護湾が広がる自然豊かな地域が校区となっている。勝山区においては、「シークワサー、山羊、山の3つの宝でむらおこし」をスローガンに取り組んだ地域振興において、2011年度農林水産祭むらづくり部門で農林水産大臣賞を受賞している。一方で、過疎化が進み就学児童の減少や地域農業の後継者不足など様々な課題がある。

本研究においては、実際の体験を通して課題を見付け追究していく資質や能力を育て、自分でできることを考えさせたい。また、地域のよさや課題に関して追究することで、児童に社会参画の態度を育て、地域への愛着や誇りをもたせたいと考える。

(2) 課題発見・解決能力を育むための探究的な学習

田村学、原田信之（2009）は、総合的な学習の時間の学習活動は、教科等の枠を超える領域的な広がりを目指す「横断的・総合的な学習」であり、かつ問題解決的な活動が発展的にくり返されていく一連の学習活動の「探究的な学習」になることと述べている（図1）。探究の過程は、日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や問題意識に基づいて、自ら課題を見付け、そこにある具体的な問題について情報を収集し、その情報を整理・分析したり、知識や技能に結びつけたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組む。明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、さらなる問題を始めるといった学習活動を発展的にくり返していく。この過程では、他者と情報や意見を交換し合い、自らの考えや判断を吟味・更新したり、協同で実践に移したりしていくとある。今回の改訂の大きなポイントとして、「解説総合編」

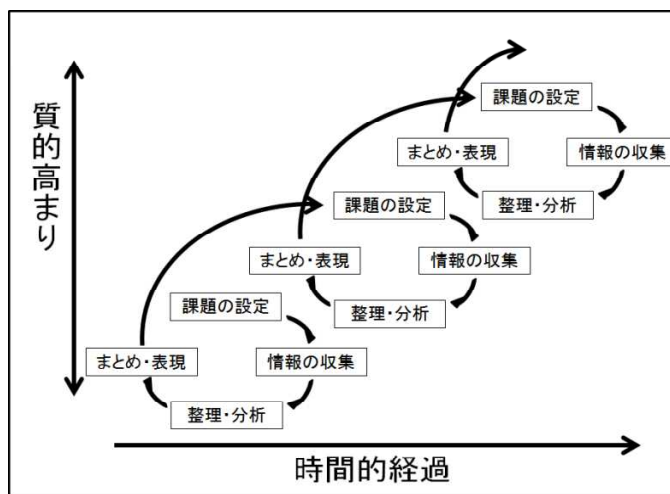


図1 探究的な学習のモデル（田村、原田編2009）

内容の取扱いの配慮事項の（2）では、「問題解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること」と示しており、同じく（4）では、体験活動を問題の解決や探究活動に適切に位置付けること。また、（5）の地域の人々との協力を得た指導体制の工夫を踏まえて体験活動と言語活動をともに充実させることが大切であると捉える。

そこで、本研究における探究的な学習については、身近な人々との交流を図る体験活動と、ワークシートを活用して児童相互が課題を見出し、追究する活動を通して自らの課題を見付け、情報を収集し整理・分析したり、考えを出し合ったりしながら課題の見通しをもたせ、解決に取り組むことができるように工夫したい。

2 他者とかかわる協同的な活動とは

(1) 探究の質を高める協同的な学び

田村（2009）は、「協同的な学び合い活動を通し、多様な考え方をもち他者と適切にかかわり合ったり、地域や社会に参画・貢献したりする態度が育まれていく。他者と知的にも切磋琢磨し合う協同的な学びは、探究の質をより高度なものにする上でも大切な要件となる。」と述べている。このことから、探究の質を高める協同的な学びにするためには、身のまわりの人々や社会、自然環境に児童が興味・関心をもち、自ら意欲的にそれらとかかわろうとする課題の解決や探究活動においては主体的・創造的な態度の育成が大切であり、また、互いに自分の考えや意見を出し合い、見通しや計画を確かめ合い、他者の考えや価値観を受け入れたり意見を交換したりしながら、課題の解決や探究活動を協同で行う学び合いの経験を積み重ねていくことが大切だと捉える。

例えば、地域のむらおこしを考える際に、地域の特色について地域の人たちにインタビューを行ったり、地域との交流や調査、体験活動を行ったりすることが考えられる。その際、課題づくりや情報を収集する活動などで、児童相互が多様な情報を出し合い、話し合うことで自分の考えを明確

にしたり、収集した情報を基に情報交換や意見交換したりすることで事象に対する見方や考え方を深めることができると考える。また、グループや集団で学習活動を進めることや、地域の人や専門家、郊外の人など他者と交流したり地域行事へ参加したりする活動を通すことにより、他者と力を合わせて取り組むことの大切さや社会参画を意識させたり地域社会に貢献する喜びを実感させたりすることができる。と考える。

よって本研究では、地域の人々や専門家、児童相互など他者とかかわる協同的な活動を通じて、収集した情報を交流し合い学び合う経験を積み重ねて多様な考えや異なる見方を深めることにより、解決への糸口や自己の振り返りができたり、他者のよさや自分のよさに気づき、知的に切磋琢磨して探究の質をより高度なものにしたりすることができる。と考える。

(2) 他者とかかわる協同的な活動の工夫

田村、原田（2009）は協同的に学ぶことについて以下のように見出している。

第1に、友達と協同して取り組み、多様な見方や考え方、意見を互いに出し合い受け入れ、見通しや計画を確かめ合いながら、課題追究をすることができる。協同の知恵が発揮されれば、課題追究の筋道も確かになり、また問題関心別グループで追究すれば、情報の収集量は多くなり、情報の質も多様になる。そうすると、整理・分析の場面での学習活動を充実させることもでき、協同で学ぶことの互惠性を経験し、協同的な態度が育まれていくことにもなる。

第2に、話し合いや検討の場面では、多様な視点で異なる考えを出すことで、ものごとの本質を探ろうと動機付けがされる。ものごとの見方が異なり、多様な考え方に気づくことで、多様な情報の中になる特徴を見付けるなど、分析的な思考が働き、互いに集めた情報を比較したり関連付けたり、グラフに表して他者を説得しようとするなど、身に付けた学び方を生かして論理的・分析的な思考を働かせることに価値が生まれる。また、協同的に学ぶ活動場面では、調べて明らかになった疑問点や自分の考え等をスクラッチ・カードに書き出し、KJ法的な手法やウェビング等で整理・分析することは、体験を言語化したり概念化したりして、更なる問題の解決や探究活動への発展を図る上で有効である。

第3に、1人でできないことも他者と協力して実現できることは多い。学級の友達と力を合わせたり、学年を超えて協力して活動に取り組んだりして成功体験を積むことは有意義である。地域の大人や専門家との交流は、社会参画の意識を育むことになると述べている（図2）。

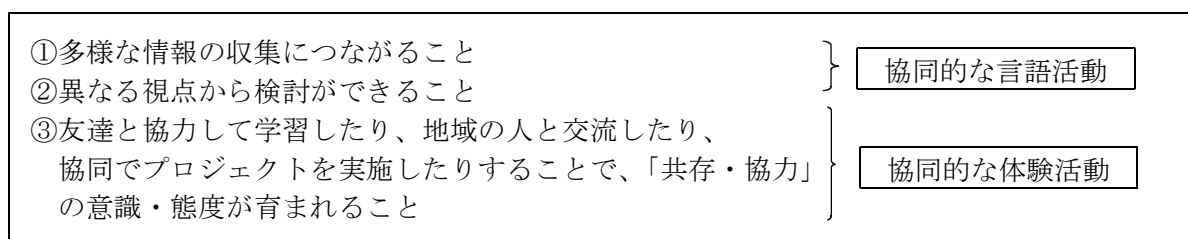


図2 協同的に学ぶことの価値（田村、原田編2009）

以上のことから本研究では、名護市の勝山区が取り組んでいる「むらおこし」に着目し、山羊の飼育体験を行い山羊と携わる人々とかかわりを図りながら、児童相互で多様な考え方や意見を交流し合う協同的な活動を通して、課題を見つけ見通しや計画をもって追究することで課題発見・解決能力が育まれる。と考える。

3 ワークシートの工夫について

(1) 探究を支える言語活動とワークシートの作成

文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集（小学校版）」において、言語活動では国語科で培った能力を基本に、すべての教科等において充実する必要がある、総合的な学習の時間における問題の解決や探究活動の過程において、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析したり、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにするとある。また、思考力・判断力・表現力等の育成を図る上で、体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりすることを、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置付けることが大切であると示されている。そのことから、体験活動で感じ取ったことを文章で表現したり相手に事実を正確に伝達したり、課題について構想を立てたり互いの考えを伝え合い発展させたりするなど、探究を支える言語活動が充実できるようなワークシートを作成する。「この課題について調べたい」、「自

分はこう考える」、「調べてわかったことからこんな風を感じた」など、児童の内面を表出し学習の見通しをもって意欲的に取り組むことができるワークシートの工夫をすることにより、児童が自ら課題を設定し、主体的に問題を解決する資質や能力が育まれると考える。

(2) K J 法的な手法とウェビングを活用しての授業展開

K J 法的な手法は付箋（カード）を用いることで、体験活動等を通して生まれた気づきや疑問を類型化して課題を見出すことができる。また、ウェビングはイメージを広げることで、多面的に捉えたり、細分化して具体的に捉えたりしながら課題を見出していくことができる。そこで、課題設定の場や整理・分析の場において、これらの手法を用いることで課題が明確化・構造化され、課題解決や課題追究の見通しがもてるようになると思う。

例えば、K J 法的な手法とウェビングを活用した授業展開として、課題設定の場において、山羊の飼育体験活動を通して、「エサはどこからだろう」、「糞はどうするのだろう」、「搾ったミルクは何に使われるのだろう」など、生まれた個々の気づきや疑問をK J 法的な手法を使って付箋に記述させる。全体で交流し合いながら気づきや疑問を類型化させて課題を見出し、テーマとの整合性や実現可能かどうかを話し合い検討させ、課題の関連性や関係性をまとめてウェビングマップに表すことで「山羊のエサを調べよう」、「糞はどこへ」、「山羊ミルクのゆくえを調べよう」など、課題が明確になり課題追究の見通しをもつことができると思う。「調べてわかったこと」、「体験してわかったこと」など、収集した情報をウェビングマップなどで可視化し、構造的にまとめ整理・分析することにより、地域との因果関係を導きだすことができるであろうと思う（図3）。

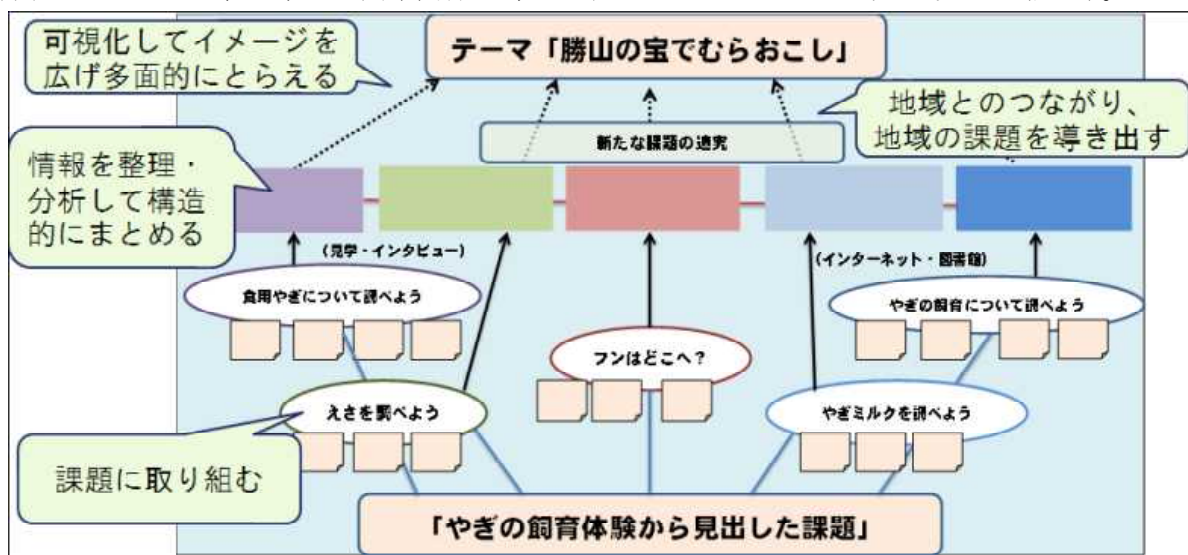


図3 ウェビングによるイメージマップ

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 「勝山の宝でむらおこし」

2 単元の目標

- (1) 地域に愛着を持ち、地域の人とのふれあいを通してコミュニケーション能力を身につける。
- (2) 環境を多面的に捉え、解決方法を自ら考え、課題を主体的に解決できる力を身につける。
- (3) 地域の産業について調べ、地域の特色を知り、課題を追究する力を育てる。

3 単元の評価規準

評価の観点	学習方法に関すること		自分自身に関すること	他者や社会とのかわりに関すること
	課題設定の力	課題解決の力	意思決定・行動力	コミュニケーションの力
単元の評価規準	①体験活動を通して生じた気づきや疑問を解決すべき課題を設定している。 ②K J 法的な手法を使って課題を明確にし、追究の見通しをもっている。	①ウェビングを使って学習活動を構想し解決の見通しをもっている。 ②互いの考えを比較したり関連付けたりしながらより適切な解決策を見出している。	①地域と自分とのかかわりを基に、地域に対する思いを明らかにしている。 ②地域に貢献できる活動を考え、力を合わせて実行している。	①地域の人とすすんでかわり、自分の思いを伝えている。 ②体験活動を通して生じた様々な課題を解決するために、他の児童や地域の方、専門家などの考えや意見、アドバイスなどを積極的に取り入れたり参考にしたりしている。

4 指導計画（16+14時間）

過程	時間	学習活動	○指導の留意点 ◇学習活動に即した評価規準	評価の観点 (評価方法)
課題設定	1	○オリエンテーション（ワークシート1、2） ・地域の宝について考える。	○ワークシートに出し合った考えを整理させ、単元のテーマを決めさせる。	課題設定の力① (行動観察・発言) (ワークシート) コミュニケーションの力① (行動観察・発言)
	2	○「ぐしけんファーム」（ワークシート3） 飼育体験 ・山羊の飼育を体験する。 (エサやり、除糞、搾乳) ・気づいたことや疑問に思ったことを書く。	◇興味を持って体験活動を行うことができる。 ◇体験を通じて課題をもつことができる。 ○体験ごとにワークシートへ記述させる。 ◇課題の解決に向けて地域の活動に参加することができる。	
	1	○【本時1】（ワークシート4） 課題を設定しよう ・体験から課題を見出し設定する。 ・追究したい課題の見通しをもつ。	○気づきや疑問を付箋紙に記述させ、可視化・共有化して課題を明確にさせる。 ◇課題を共有化・焦点化して、追究したい課題を見出すことができる。	
情報収集	1	○学習計画を立てよう（ワークシート5） ・これから調べていく計画を立てる。	○課題ごとにグループを作り計画を立てさせる。 ◇課題の見通しをもった計画を立てることができる。	課題設定の力② (行動観察・発言) (ワークシート) 課題解決の力① (行動観察・発言) 意思決定・行動力① (ワークシート)
	2	○取材の計画を立てよう（ワークシート6、7） ・下調べや面会の予約、体験や見学インタビューの準備をする。	○いつ、どんな方法で調べるか計画を立てさせる。 ◇課題を追究するための方法を知り取り組むことができる。 (国語科との関連)	
	4	○取材をしよう（ワークシート8、9、10） ・探究活動（体験、見学、インタビューなど）	○取材してわかったことや気づいたことをワークシートに書かせる。 ◇課題について情報を収集することができる。	
整理・分析	2	○【本時2】 取材したことを整理しよう（ワークシート11、12） ・新たな課題と解決の見通しをもつ。	○各々調べたことをウェビングマップに載せ共有し構造化させて新たな課題と解決の見通しをもたせる。 ◇情報の中から必要な内容を整理・分析することができる。 (国語科との関連)	課題設定の力② 課題解決の力① 課題解決の力② (行動観察・発言) (ワークシート) コミュニケーションの力② (行動観察・発言)
	2	○中間発表会の準備をしよう（ワークシート13、14） ・中間発表会の準備をする。	○これまでにわかったことを発表するための準備をさせる。 ◇気づきや考えを文章で表現して整理することができる。 (国語科との関連)	
	1	○中間発表会・検討会（ワークシート15） ※（ここまで検証授業とする）	◇友達と交流し、気づいたことなど新たな情報を整理し、自己の考えと比較したり関連させたりすることができる。 ◇活動を振り返り、自分の考えを整理することができる。	
課題設定	1	○地域について考えよう（ワークシート16） ・地域のよさや課題を見いだす。	○地域のよさや課題などを調べたことから見付けさせる。 ◇これまでの学習とテーマとの関連や関係について考えることができる。	課題設定の力② (行動観察・発言) (ワークシート) 課題解決の力② (ワークシート) 意思決定・行動力② コミュニケーションの力② 課題設定の力② (行動観察・発言) (ワークシート)
	2	○学習計画を立てよう	◇課題の見通しをもった計画を立てることができる。	
	2	○取材の計画を立てよう（ワークシート17） ・下調べやアポイントメント、体験や見学、インタビューの準備をする。	○いつ、どんな方法で調べるか計画を立てさせる。 ◇課題を追究するための方法を知り取り組むことができる。 (国語科との関連)	
整理・分析	4	○取材をしよう（ワークシート18） ・探究活動を行う。	○取材してわかったことや気づいたことをワークシートに書かせる。 ◇課題について情報を収集することができる。	意思決定・行動力② コミュニケーションの力② 課題設定の力② (行動観察・発言) (ワークシート)
	2	○取材したことを整理しよう（ワークシート19） ・ウェビングマップで可視化する。	○調べたことをウェビングマップに載せて整理し、構造化させて全体で把握させる。	
	3	○報告書にまとめよう ・壁新聞、ポスターなど ○「シークワサー花香り祭」で調べたことを発表しよう（ワークシート20） ・活動の取り組みを地域の人や保護者に伝える。	○これまでに知り得た情報をまとめさせる。 ◇情報の中から必要な内容を整理・分析することができる。 (国語科との関連) ◇学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かすことができる。 ◇相手や目的に応じて、わかりやすくまとめ、表現することができる。 (国語科との関連) ◇地域の活動に参加し地域社会に貢献する喜びを実感することができる。	

5 検証授業

(1) 本時1（12月4日）（4／16時）

① 小単元名 「課題を設定しよう」

② 本時の目標 課題を共有化・焦点化して、追究したい課題を見出すことができる。

③ 授業仮説 課題設定の場において、児童個々の課題を付箋に書かせ、KJ法的な手法を使って課題を全体で共有化・焦点化させることにより、課題を解決するための見通しがもてるようになり、追究したい課題を見出すことができるであろう。

④ 本時の展開

過程	学習活動	○指導の留意点 (評価方法)
導入	1 前時の振り返り ・ 本時の学習を説明する。 ・ ワークシートに書き出した気づきや疑問を確かめる。	○前時の気づきや疑問を振り返らせ、本時の学習の見通しをもたせる。
展開	2 課題の設定 ・ ワークシートに書き出した気づきや疑問を付箋に書く。 ・ 4～5人グループで気づきや疑問をグルーピングして課題を見付ける。 ・ 各グループからの疑問をまとめ課題を設定する。  ・ 課題を追究するための方法を考える。	○視覚化のため太いペンを使って付箋に書かせる。 ○KJ法的手法で類型化させる。 ○模造紙を黒板に提示し、各グループから出された課題を共有化、焦点化させ、全体の課題として設定させる。 (行動観察・発言) ◇課題を追究するための方法を出させ、これからの見通しをもたせる。
まとめ	3 本時をまとめる ・ 設定した課題をワークシートにまとめ、感想を書く。 ・ 感想を発表して次時の説明をする。	○ワークシートに設定した課題をまとめさせ、感想にこれから追究していく思いや見通しが見えるように書かせる。 (行動観察・発言、ワークシート4)

(2) 本時2 (1月16日) (13/16時)

- ① 小単元名 「取材したことを整理しよう」
- ② 本時の目標 取材した情報の中から必要な内容を整理・分析することができる。
- ③ 授業仮説 整理・分析の場において、見学やインタビューで知り得た情報を、課題ごとに分類・整理することにより、多様な見方や考え方をもちことができ、課題追究への見通しをもって伝えたい内容を明らかにすることができるであろう。

④ 本時の展開

過程	学習活動	○指導の留意点 (評価方法)
導入	1 前時の振り返り ・ 本時の学習を説明する。 ・ 前日に書いた付箋を用意する。	○付箋紙に書き出した調べてわかったことを振り返らせ、本時の学習の見通しをもたせる。
展開	2 整理・分析 ・ 調べてわかったことを課題ごとに各グループで分類し整理する。  ・ 調べてわかったことを分類ごと色画用紙に書く。 ・ 山羊について一番伝えたいことは何か考える。 ・ これから調べてみたい新たな課題を考える。	○前回の分類の仕方を想起させ、作業時間の見通しをもたせるためにタイマーを用意する。 ○スムーズに分類・整理できるよう手順を確認しておく。 ○調べてわかったことを互いに比較し合いながら整理して焦点化させる。 ○情報の量だけでなく情報の質にも着目させる。 ○これまでの活動を載せたウェビングマップに調べてわかったことを色画用紙に貼り付けて再構成し、伝えたい内容を明らかにさせる。 (行動観察・発言) ○テーマとの整合性などに留意しながら話し合わせ、課題を吟味させる。
まとめ	3 本時をまとめる ・ ワークシートに本時の感想を書いて発表する。	○感想を3名発表させて友だちの感想から、これからの追究の見通しをもたせる。 (行動観察・発言、ワークシート12)

6 仮説の検証

本研究では、児童が自ら課題を設定し、主体的に問題を解決する資質や能力が育まれることを目指し、地域の人々との交流や児童相互の協同的な活動とワークシートの工夫を通して実践した。検証方法は、ウェビングマップやワークシートの記述、児童の発言や行動、自己評価カードや児童の感想から分析・考察する。

(1) 他者とかかわる協同的な活動の工夫

地域の人々や専門家、児童相互など他者とかかわることにより、自然環境や社会に興味・関心をもち、互いに自分の考えや意見を出し合いながら、見通しや計画を確かめ学び合いの経験を積み重ねていくようにした。本時1では、山羊に携わる人々とかかわり、山羊の飼育体験を行うことで、

児童が多様な考え方や意見を交流し合うことができ、課題を見つけ見通しや計画をもって追究することができる考えた。そこで、課題発見・解決能力を育むため、課題設定の場において、飼育体験を通じての気づきや疑問を類型化させて課題を見出し、課題とテーマとの整合性や実現可能かどうかを話し合い検討を図った。

また、本時2では、インタビューや見学を通して知り得た情報を課題ごとに分類・整理することで、多様な見方や考え方をもちことができ、課題追究への見通しをもって伝えたい内容を明らかにすることができる考えた。そこで、整理・分析の場において、課題の関連性や関係性をまとめてウェビングマップで可視化し構造的にまとめ、地域との因果関係を導きだして課題追究の見通しをもちことができるよう授業の展開を図った。本時1、2において、課題設定や整理・分析などの探究的な学習を話し合いやグループワークによる協同的な活動を通して、自ら課題を見付け、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力が育まれると考える。

本時1及び本時2の授業後の感想を評価規準の「評価の観点」、「単元の評価規準」に合わせて分析・考察する。

評価の観点「学習方法に関すること」の記述が、本時1では46%、本時2では79%あった。授業の感想では、「自分では気づくことができないことがたくさんあった」、「自分とはちがう考え方や感じ方があった」、「調べたいことが見つかった」、「自分がわからないことを友だちが付箋に書いてくれたので、そうなんだと知ることができた」などがあった(図4)。

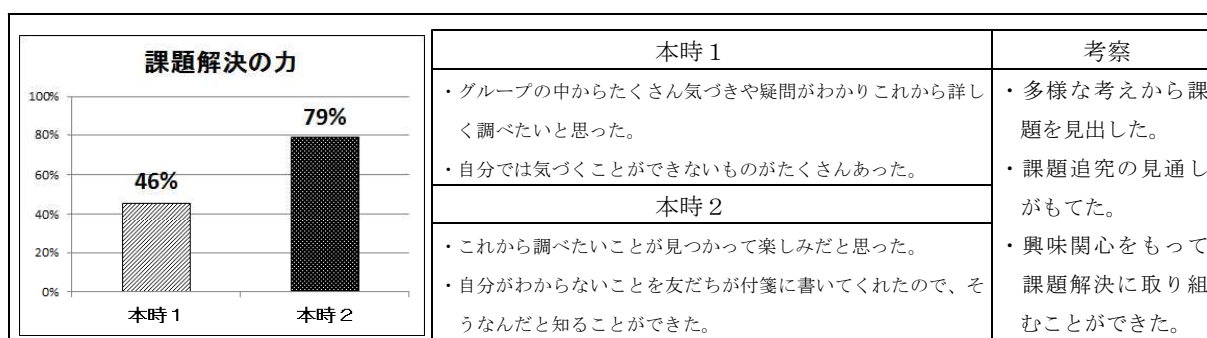


図4 「課題解決の力」に関する記述のワークシート

また、児童の発言からは、「やぎのミルクがアイスクリームの他に何に使われているか調べたい」、「将来、やぎの研究をしてみたい」とあり、校外活動で偶然やぎを見かけた際には、これまでやぎに興味のなかった児童が、やぎに近づいて草を与えたり、頭をなでたりと、すすんでかかわる姿が見られ、「勝山のやぎの歴史について調べてみたい」と話していた(写真1)。グループや全体で自分の考えや調べたことを交流させる協同的な活動を行うことで、多様な考え方や課題追究の見通しがもてるようになり、興味関心をもって課題解決に取り組むことができたと考える。

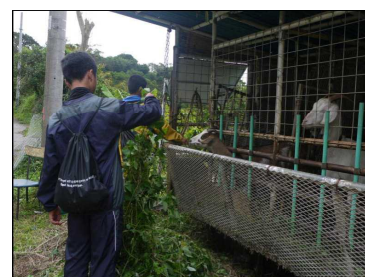


写真1 やぎに関心をもつ児童

評価の観点「他者や社会とのかかわりに関すること」の記述では、本時1で27%、本時2では50%であった(図5)。感想として、「みんなで話したら自分とちがう考えがたくさんあった」、「

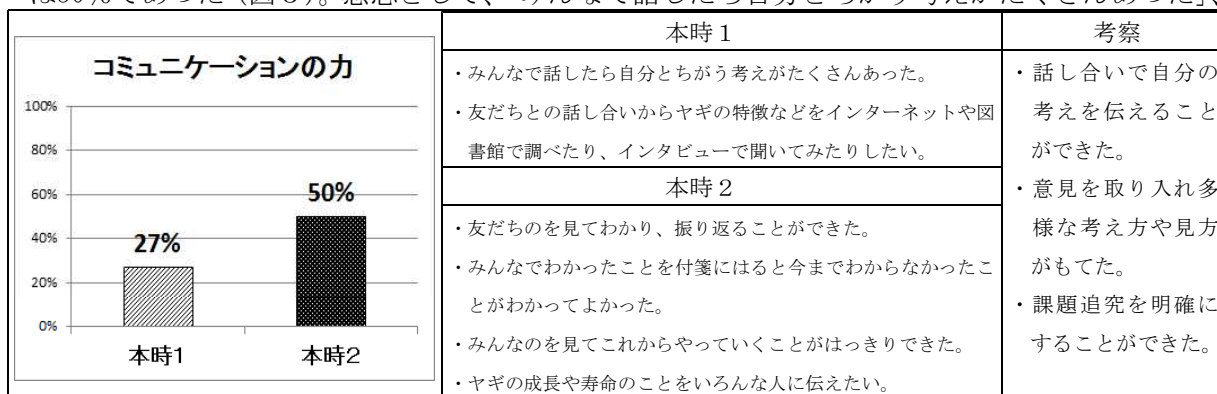


図5 「コミュニケーションの力」に関する記述

「友だちのを見てわかり振り返ることができた」などがあつた。また、児童の行動や発言から、見学場所で専門の人にすすんで会話や質問をしたり、地域で山羊を飼育している家を訪ねたりするなど、興味関心をもって山羊に携わる人とかかわる様子が見られた。勝山の山羊が自分たち地域の宝であるという実感をもちながら、山羊について調べたことを多くの人へ伝えたいという気持ちがうかがわれた。児童相互で協同し取り組む活動や専門家や地域の人など他者とのかわりを通して、考え方や見方を深め、協力し合うことの大切さや地域に貢献しようとする意識が高まったと考える。

(2) ワークシートの工夫

① 探究を支える言語活動とワークシートの作成

体験活動から感じ取ったことを文章で表現し、相手に事実を正確に伝達したり、課題について構想を立てたり、互いの考えを伝え合うことで、児童が見通しをもって自ら課題を設定して主体的に問題を解決する資質や能力が育まれると考え検証を行った。

探究を支える言語活動として、多様な考え方や見方がもてるようKJ法的な手法を活用し、課題の設定と情報の整理・分析を、話し合う、書く、操作するなどの協同的な活動を通して行った。授業後の感想として、「気づいたことや疑問に思ったことを付箋に書いて話し合ったら自分とちがうことがたくさんあった」、「気づきや疑問を表にするとたくさんの課題がまとまってできた」など、活動に興味関心をもって楽しみながら課題を発見し、課題を解決しようとする態度が育まれたと考える。

ワークシートにおいて、児童がもつ思いや願い、見方・考え方を見取り、探究活動を進めていく手立てとしてワークシートを作成した。第1時の課題設定の活動では、きらきらシート2を使用し、児童に地域の宝について考えさせ、学習のテーマを決めさせる(図5)。児童の感想から、「自分たちの住んでいる所には、たくさんの宝ものがあることがわかった。しかし、知らないことが多かったのもっと知ってたくさんの人に伝えたいと思った」とテーマに関する学習意欲の向上が見られた。第4時の情報収集の活動では、きらきらシート5を使用し、山羊の飼育体験を通して気づいたことや疑問に思ったことを焦点化・可視化を図った(図6)。「乳しぼり」、「エサ」、「農業」、「やぎの特徴」、「小屋」などそれぞれ分類したものにタイトルを付け、課題を明確化することができた。調べる方法として、インターネットや図書館、インタビューや見学などを上げることで追究の見通しをもつことができ、今後の学習につながるすることができたと考える。第12時の整理・分析の活動では、きらきらシート11を使用し、これまでの調査で得た情報を基に整理し、「仲里さんにとってやぎとは、家族のようなもので宝だと思います」と、自分なりの考えを導き出すことができた(図7)。

第13時「取材したことを整理しよう」(本時2)では、見学やインタビューなどで知り得た情報を課題ごとに分類・整理し、伝えたい内容を明らかにする活動

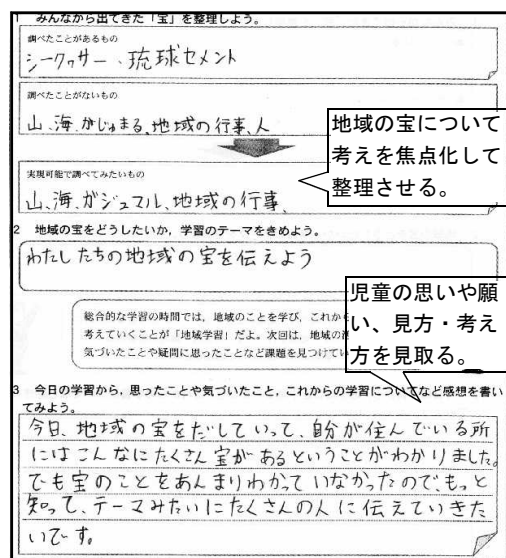


図5 課題設定のきらきらシート2

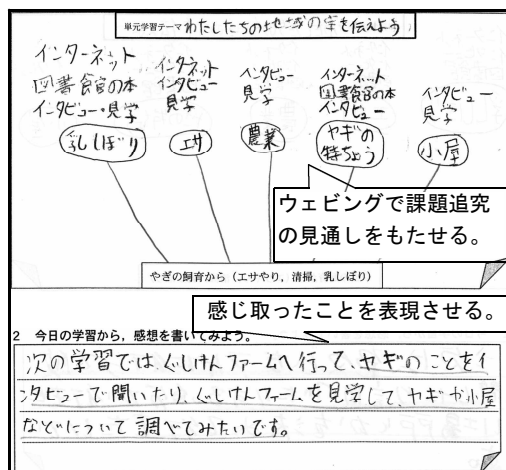


図6 情報収集のきらきらシート5

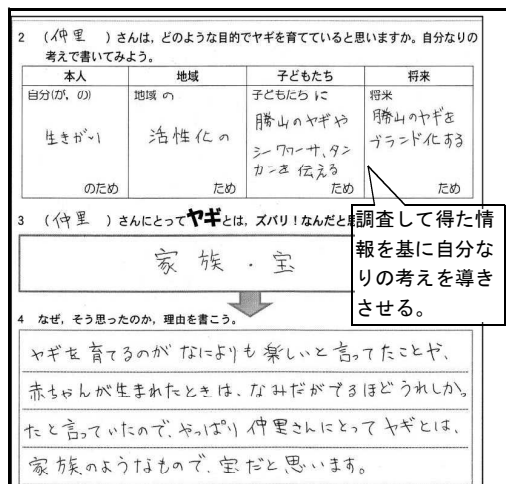


図7 整理・分析のきらきらシート11

を行った。児童の感想から、「調べたことの中でやぎの種類や首にある肉ぜいのことがおもしろかったので、やぎの特徴について伝えたい」、「ヤギの乳からフィーラリアという歩けなくなって死んでしまう病気にかかることがわかってかわいそうだと思ったし、だから消毒するんだなとわかってよかった」、「タンカンやシークワサーの皮をエサにしていることがわかった。なので、ヤギとタンカン、シークワサーの関係についてもっと調べてみたい」などがあった。調べたことから互いに考えを伝え合い整理・分析を行うことで、多様な考えや興味関心をもち、意欲的に課題追究しようとする態度が見られるようになり、追究の見通しを持って自ら課題を設定して主体的に問題を解決する資質や能力が育まれた。

また、ワークシート以外に自己評価カードを作成した。本時1、2の授業後、自己評価カードを児童に記入させ、「身につけさせたい力」がどれくらい育まれたか考察する。「課題をはっきりさせてこれからの学習に見通しをもつことができたか」についてよくできるが1回目は60%、2回目が86%であった。課題設定において、課題を焦点化し整理させることで、学習の見通しをもつことができたと考える(図8)。「地域について興味や関心をもって取り組むことができたか」について、よくできるが1回目80%、2回目86%であった。地域への興味関心では、地域の人や専門家など他者とのかかわりや体験活動を行うことにより、興味や関心をもって取り組むことができたと考える(図9)。「考えたことをワークシートにまとめることができたか」について、よくできるが1回目87%、2回目93%であった。ワークシートにおいて、児童の考えや思い、調べたことを整理し新たな課題や発見を見出すなど、課題追究の見通しをもつことができたと考える(図10)。

課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究活動の過程ごとに作成したワークシートを活用することにより、グループ活動で全員が話し合いに参加し、付箋を使って分類したり異なる視点から考えや意見を交流したりして課題を解決しようとする姿が見られた。また自分の役割を自覚して、インタビューの質問事項や見学のポイントをワークシートに書き出したり、それらを実践したりする姿が見られた。児童が積極的に話し合いに参加し、調査・見学など課題解決に取り組む姿が見られたことから、課題追究に見通しをもって自ら課題を設定し、主体的に問題を解決する資質や能力を育むためのワークシートの活用は有効であったと考える。

② KJ法的な手法とウェビングを活用しての授業展開

KJ法的な手法で類型化した課題をウェビングマップにし、それを基に課題追究の見通しをもたせる構造図として、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の探究活動の過程の視覚化を試みた。分類や整理の容易さや個別の考えから集団へと課題を高めていく協同的な活動が展開できるKJ法的な手法、図による可視化でイメージを広げて多面的に捉えたり、細分化

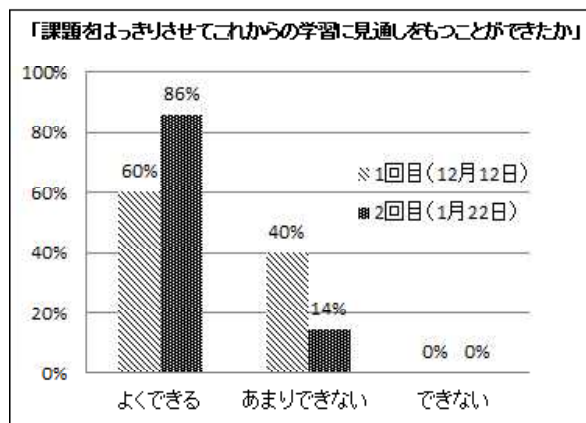


図8 課題を見つけて解く力

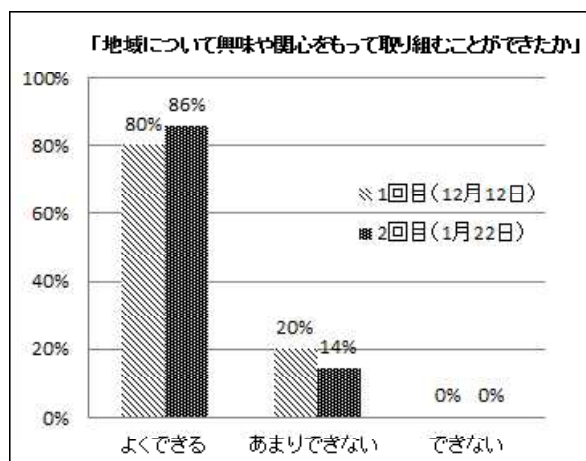


図9 他者とかかわる力

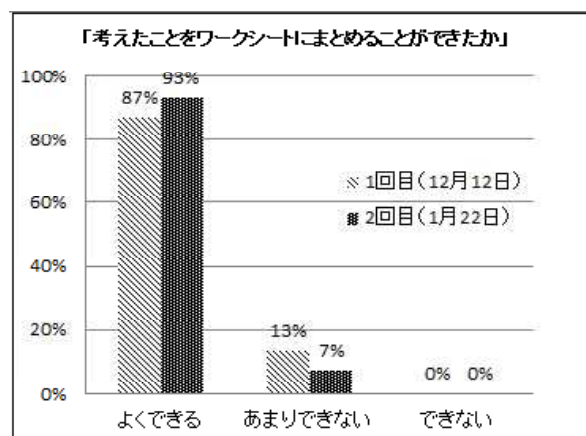


図10 自分の考えを伝える力

して具体的に捉えたりしながら課題を見出すことができるウェビングを活用することにより、課題が明確化・構造化されて課題解決や課題追究の見通しがもてるようになると考え検証を行った。

本時1において、KJ法的な手法を用いて授業を展開したところ、飼育体験から気づいたことや疑問に思ったことを書いた付箋についてグループで話し合い、互いの付箋を交流しながら意欲的に分類し課題を設定することができた(写真2)。児童の感想からは、「たくさんの気づきや疑問から課題が見つかって、これから調べていきたいと思った」などがあった。児童の行動では、声を出して読み上げ分類しやすくしたり、タイトルやキーワードをつけたりして、話し合いを通して課題を明らかにしていく姿が見られた。課題を設定する過程で多くの情報から互いに吟味し合うことで、多様な考え方や課題追究の見通しがもてたと考える。

本時2においては、KJ法的な手法を用いて調べた事柄を整理・分析し、ウェビングマップに掲載することで調べたことが明確になった(写真3)。また、地域の人などに一番伝えたいことは何か、今後の課題追究の見通しをもたせるのにウェビングの活用は有効だったと考える。

このような授業展開は、課題設定や整理・分析など課題を解決する探究的な学習において、児童に多様な考え方を生みだし課題を明確にするとともに課題追究の見通しを視覚的に確かめることができた。



写真2 分類と課題設定

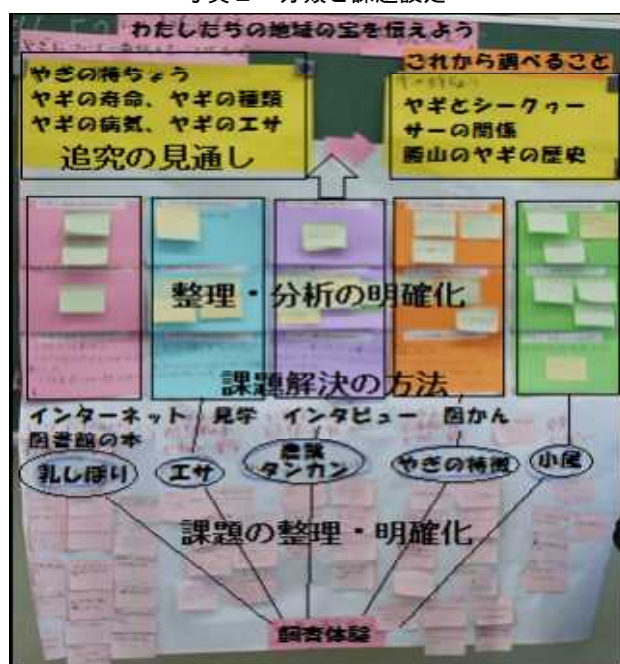


写真3 ウェビングマップの活用

IV 成果と課題

1 成果

- (1) 体験活動や話し合い活動、地域の人や専門家など他者とのかかわることによって、意欲的・協同的に学び合うことができ、課題解決への明確な見通しがもてるようになった。
- (2) 探究活動の過程ごとにワークシートを工夫することにより、学習の見通しをもって意欲的に取り組み、自ら課題を設定し、主体的に問題を解決する資質や能力を育むことができた。
- (3) 地域の宝に着目し、課題の整理や明確化、探究活動の過程を可視化することにより、児童が地域のよさに気づき追究していく中で、地域に貢献しようとする態度が育まれた。

2 課題

- (1) 児童自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的、創造的に取り組むことができるような気づきや発見につながる発問の工夫が必要である。
- (2) 主体的に判断しよりよく問題を解決できるような、小集団や異年齢集団などの学習形態の工夫が必要である。

〈主な参考文献〉

- 文部科学省 2011 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間（小学校編）』教育出版
 田村学・原田信之編著 2010 『リニューアル総合的な学習の時間』北大路書房
 文部科学省 2008 『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社